

第 9 期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定に係るケアマネジャー調査（令和 5 年 3 月）

より抜粋

対象：市内居宅介護支援事業所 94 事業所及び小規模多機能型居宅介護事業所 7 事業所

回答した事業所数：居宅介護支援事業所は 59 事業所、小規模多機能型居宅介護は 1 事業所

回答した事業所に所属するケアマネジャーの人数：198 人

「1 人」または「2 人」が最も多く、各 16 事業所。1 事業所に最大人数は「11 人」

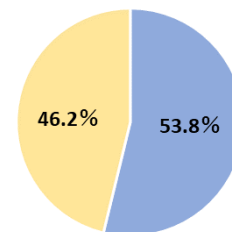
多職種との連携（地域ケア会議、担当者会議、医療介護連携、高齢者サポートセンターとの連携等）についてお伺いします。

(1) 連携において課題に感じることはありますか。

多職種との連携に課題を感じているか

「特に課題に感じていることはない」は 53.8%と、

「課題と感じていることがある」と比べてやや多い。



■ 特に課題に感じていることはない ■ 課題と感じていることがある

○入退院調整・その他医療との連携

医療介護連携がはかりにくい：連携が取れるところもあるが、医療機関や担当者等（入院先や通院先の医師、看護師、リハ職等）によっては連携が困難なことがある。

連携を図りにくい医療機関がある。（入院先に窓口・担当者がいなかったり、病棟に直接繋がれるが病棟内でも情報連携ができていないため情報が得られなかったりする、診療所によってはケアマネから情報提供を行っても全くレスポンスがないなど）

病院に入院となった際に、情報共有の為、現在の状態を電話にて伺った際に、教えていただけないことがある。

特に病院の方が忙しそうで連携を図れない。電話をしても繋がらない。入院した理由を聞いても、個人情報だからと教えてくれなかった。

医療機関によって連携方法の違いや本人主体の連携がなされない事も多い。

病院とうまく連携が取れず、入院されているご利用者様の情報などが教えてもらえないケースがあったと聞いた。

大きな病院だと相談員・退院支援看護師がおり窓口が分からない時がある

退院時の連携、退院調整が困難。調整出来ていないのに退院するなど。

医療介護連携：医療側が急に「とにかく出す」と言うと困る。自分達はいろいろ聞かすが、当方へは下す情報少ない。看護サマリーは退院前に必ず欲しい。

医療介護連携で退院カンファレンスをして在宅生活をスムーズのしてくれる医療機関がほとんどですが、中には、ケアマネに連絡なく退院されて混乱を招くケースがある。

医療職側の介護保険制度の理解の薄さ／医療の相談員が介護保険を分からず使えないサービスを提案する

特に医師との連携をどのようにしたらスムーズに行えるか課題に感じている。

医療介護連携。特に看護師や医師は集まりにくい。／医療との連携の取りづらさ